

令和4年度 高山市誰にもやさしいまちづくり推進会議 会議録（要旨）

日 時：令和5年3月28日（火） 10時00分～12時00分

場 所：高山市役所4階 特別会議室

出席者：高山市誰にもやさしいまちづくり推進会議委員 12名

（オンライン出席1名を含む）

（欠席者2名） ※別紙名簿のとおり

高山市企画部長、企画課長、企画課係長、行政経営課担当監、協働推進課長、福祉課課係長、企画課担当

会議内容（次第）

1. 開会

2. 市あいさつ（上田企画部長）

3. 会長及び副会長の選出について

会長 西山委員

副会長 窪田委員

4. 議事（議長：西山会長）

(1) 高山市における誰にもやさしいまちづくりについて

資料に基づき事務局が報告

村井委員

- ・ 現在設立に向けて動いている「ひだ財団」について、この財団では子ども及び若者に関する支援や日常生活や社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動を行う。働くことが困難な人等に対するソフトの部分の支援していくとあり、その財団との連携も良いのではないかと。

松浦委員

- ・ 「村半」といった若者の居場所づくりにここ数年力を入れられていて、高校生が生き生きと活躍している姿は素敵だと思う。私は仕事で発達障がいや障がいのあ

る方、不登校の方などそのような方々と関わることが多いが、そういった方々がきらきら輝けないけれども活動できる居場所のようところがまちなかに充実してくると嬉しい。

議長（西山会長）

- ・ 居場所の問題は都市の研究においても大事な研究となっており、大学においても空き家や空きスペースを使って人が集まる居場所づくりをしている。少し困ったときに話ができたり気軽に立ち寄り交流ができる場所があることは大事なことだと思っており、そういう居場所が増えてくると良い。高山市の場合は広域のため行き渡ることが課題だと思っている。

渡辺委員

- ・ 今後どのようなところに注力して取り組んでいくと良いかを現場に立ち戻って考えたときに、困っている人達に助け舟を出すということに尽きると思う。困っている人や深刻度の幅は広いため、厚みのある課題に対してどこに注力していくかということを考えることが大事だと思う。
- ・ 困っている方の生活のしやすさに対してアプローチしていくことが一番大事だと思うが、観光に来た方や外国の方等に対する幅広いアプローチについても分けて考えると良いと思う。
- ・ 同級生に難聴の子がおり、その子が何回も後ろを見ながら歩いているところに遭遇した。「なぜそのようなことをしているか」と聞いたところ、後ろから来る自転車や人の音が聞こえないので邪魔にならないように道の狭いところでは後ろを見て歩いているとのことだった。健常者の私にはわからなかったため、困っている方に対するヒアリング等は重要だと思う。
- ・ 本庁舎駐車場のゲートについても、運転が不慣れな方でも入りやすいような措置がなされると良いと思う。障がいのある方ない方に関わらず困っていることに対してどれだけ理解できるかという視点とアンテナを高くすることが様々な取組みの最初のアプローチになると思う。

議長（西山会長）

- ・ アンテナが張れるかどうかについては意識をするかしないかという教育の問題である。大学でもユニバーサルデザイン教育が増えてきているが、意識づけのためには小中高の早い段階で行わなければならない。

糸田委員

- ・ 子ども達にとって多文化共生は、英語を話して外国の方と交流することだと思っ

ているがそうではない。今後はアジアの方たちが高山を選んで働きに来て、高山を支えてくれる時代になると思う。これからは職場で一緒に外国の方と働くことが普通になっていき、その外国の方はアジアの方が中心になる。アジア人差別をしているようでは高山を選んでもらえなくなるということ、外国の人と一緒に働き一緒に暮らしていくということはどういうことかということ、子ども達にきちんと伝えていくことが大切だと思う。教育は大事だと思っている。

議長（西山会長）

- ・多文化共生にも意識付けは必要で、英語ができるということだけではない、国際化の本質的な部分を高山らしさも含め教えていくことも必要である。

長野委員

- ・新型バスを作る場合、バリアフリー対応も日進月歩で進歩しているが、積み重ねていくしかないと思うので、様々な意見を反映させながら少しずつ実施していきたいと思う。
- ・カラー舗装などといったバリアフリー対応をした場合、その理由や意味等について市民の方や健常者に知っていただくことで意識が高まっていくと思う。

議長（西山会長）

- ・全国的にバリアフリー運賃が導入されつつあり、東京では10円程度の値上げが始まっている。10円には根拠があり、10円くらいであれば支払っても良いという都市生活者が多いことがわかっている。都市生活者からは、バリアフリー運賃によって実施した改善箇所等、その成果や効果を見せてほしいという要望がある。今後全国的にも必要になってくるのではないかと考えている。

長野委員

- ・都市部においては、10円程度の賃料値上げ分を設備投資に充てるのが可能だと思うが、飛騨地域では公共交通を利用する方がとても少ないため、10円、20円程度の値上げ分を何かに投資することはとても難しい。

議長（西山会長）

- ・バリアフリー運賃の導入により利用者が減るのではないかと懸念もある。

長谷川委員

- ・高山市の取組みについて、これまで何十年かけて様々な取組みを実施してきたという点は重要だと思う。技術分野においては、技術が変わって実施したことが駄

目になった場合、そこから変えていく勇気が必要だと思う。

- ・デジタルについても積極的に活用していき、実施して駄目であればそこから新しいものに挑戦していくと良いと思う。デジタルの恩恵を受けるような取組みがなされていくと良いと思う。

議長（西山会長）

- ・デジタルの活用において、効率化と効果の点で人手不足が課題にある。AIロボット等をどのように取り入れていくのかという議論があるが、導入を試すことができる雰囲気が必要で、技術も様々な中で食わず嫌いにならないようにすることが大事だと思う。

(1)について了承

(2)誰にもやさしいまちづくりの見直しに係る取組みについて

資料に基づき事務局が説明

議長（西山会長）

- ・今までにない視点及び今後強化していかなければならない視点を4点述べたい。
- ① 介護される方だけでなく、介護する方の負担が大きいので、介護福祉分野のDX（デジタルトランスフォーメーション）について誰にもやさしいまちづくりにどのように位置づけていくか。
- ② 性的マイノリティの方や内部障がいの方など、目に見えなかったり当事者が表に出さない、出しにくいといった障がいについてどのように考えるのか。
- ③ モビリティについて、オンデマンドやクリーンなものが求められている。グリーンスローモビリティといった電動の機器を観光にどのように位置付けていくのか。移動の分野においてエコとユニバーサルデザインをどのように結び付けるのか。
- ④ 高山らしいユニバーサルデザイン教育について、困っていることについて意識して見つけて、発信ができるといった人材をどのように育てていくのか。

林委員

- ・4年程前の水害の際に避難指示が多く出されたが、市内全域が避難区域となった場合にどのように避難したら良いのか根本的な考え方があると良いと思う。

- ・別紙1の外国人向けワンストップ医療相談窓口について、建設業界においてカンボジアやベトナムの方が働いているが、これらの方がけがをされたときに英語が話せずとても苦勞した経験がある。建設業界には様々な組織があるが、市内に外国の方がどのくらい滞在しているといった情報を組織において把握し、何かあったときに病院などの対応がスムーズにできるような支援があると良いと思う。

糸田委員

- ・日本語教室や災害時の防災教室といった行事等を外国の方に紹介したいときに、市からは外国の方の情報を教えてもらえないし、市では、市内在住の外国の方がどこに勤めているかについて把握していない。外国の方を対象とした行事等に来ってもらう外国の方を探しだすことができない状況である。
- ・事業者側が日本語教育や災害を含めた高山での生活について考えるなど、一生懸命になっていただかないと外国人への対応は進んでいかないのではないかと考えている。
- ・外国人への対応の入口として、どのような外国の方がどこに勤めているといった情報を掴むことからだと思う。

高堂委員

- ・気になることや困ったことがあった場合どこに相談すると良いかわからない。例えば、学校の体育館に入る通路が土で汚れていることや、まちなかやバス乗降箇所の段差や階段の解消等。市民の方が、困りごとに対する連絡先や解決方法について容易に知ることができる分かりやすい体制づくりが大事だと思う。
- ・別紙3のスマートフォン教室について、開催されていることを知らなかったが、どのように広報されたのか。

行政経営課担当監

- ・広報たかやまへの掲載と、まちづくり協議会への広報や町内会への回覧を依頼した。

野中委員

- ・精神疾患の重い方や認知症がかなり進行した方々がこの町で暮らしやすいかという決してそうではなく大変なことがたくさんある。例えば認知症の方の徘徊対応のためのGPSについては、大きすぎて使いづらくいかに持っていたかくかを考える苦勞があること、ごみ出しについてヘルパーさんの人材不足によりなかなか捨てられないこと、避難所についてそこまで行く方法がないことや行けたとしてもトイレにオムツ交換のできるベッドが無く利用できなかった

といったことがある。市の様々な施策と、現場で接する方々の日常生活に温度差を感じる。

- ・人材不足への対策の一つとして中高生を対象とした介護フェアを開催したが参加者は少なかった。若い世代の方への周知ができないと人材不足の解消は難しいと思うため、AIなどにより夜間の見守りができるものを導入していくこと等を考えて行かなくてはならないと思う。

林委員

- ・9ページ61番の地域コミュニティ支援システム（電子回覧板）について内容を詳しく教えてほしい。

協働推進課長

- ・町内会の活動や運営を支援する仕組みについてデジタルを活用したい。例えば、災害時の避難所情報や安否確認を迅速に行うことができるシステムづくりを考えている。デジタルの活用により町内会長等の負担を軽減することをはじめ、現在の回覧板では限られた方しか見ないということもあるため、多世代の方に活用いただくことで新しい交流にも繋げていきたいと考えている。
- ・4地区程度のモデル地区を設定し2年間実証を行う予定である。町内会連絡協議会においてデジタル化の検討チームを立ち上げたため、このチームにおいて実証の結果を踏まえた今後の展開等を議論していく。

議長（西山会長）

- ・デジタルの回覧板の実施によってインタラクティブになるとか、情報を受けた側からも発信ができるといった付加価値はあるのか。

協働推進課長

- ・どのようなアプリを導入していくのかという点も議論になると思うが、自分たちでシステムを育てていく、自分たちが使いたい形で作り上げていくようなシステムにしたい。また、一方的な情報発信ではなく、配信を受けた方が配信者側へバックできるようなことも考えていきたいと思っている。

糸田委員

- ・2ページ12番のボランティア団体への活動費の助成の内容について教えてほしい。

福祉課福祉・障がい係長

- ・各団体が行う事業にかかる費用に対して補助金を交付するもの。各団体が活動計画や実績を社会福祉協議会に提出し、同協議会が各団体へ補助金を支払う。

糸田委員

- ・助成金は事業に対して支払われるものが多く、人に対しては支払われないものがほとんどである。事業を動かしているのは人であり、事業に対してではなく、活動自体に支払われる助成があると良い。

松浦委員

- ・目に見えない障がいや多様性について小さい頃から知ることが今後大事になっていくと思う。
- ・資料1 ページ3番で、二十歳のつどいと人権講演会においてLGBTの啓発をされているが、20歳の前からLGBTの方々と関わることがあったり、関わる中で受ける傷やうまくいかないこともあると思う。目に見えないことをどう理解していくのかということは今後考えていくことができれば良いと思う。

議長（西山会長）

- ・目に見えないところというのは意識しないと気付かない。気付かせるためには、人権教育も含めて大学以前の早い段階で取り組んでいった方が良いと思っている。

渡辺委員

- ・情報をきちんと整理してアウトプットができるだけでも、全体の課題の3分の1ほどは解決できるのではないかなと思う。
- ・情報の整理についてはデジタルの技術を活用し、様々な方が様々なところから情報を受け取ることができると思う。
- ・情報や提供を受け取る側の方の中には、「同じような気持ちをわかっているから助けになりたい、協力したい」という方もいて、そういった中から事業のサポートをしてくださる方が現れることもあると思うため、情報の整理が大事であると思う。

議長（西山会長）

- ・障がいは多様化している部分もある。外国の方、子育て支援での困りごとも多様化している。それらを整理していくひとつの役割としてDXはあると思う。問題発見と問題整理をすることで、協力したいという方が出てくることは非常に良いことだと思う。そのような機会が生まれる情報基盤のようなものは必要

かもしれない。

日下部委員

- やさしいまちづくりをすすめるとは、国際都市として高山市が発展するためには必要不可欠なことだと思う。
- 空き家の活用や空き家対策について、市の空き家対策委員会と連携し、誰にもやさしいまちづくりの取組みに加えると良いと思う。
- 障がい者と健常者の区別がなくなっていくと良い。例えばパラリンピックについて、運営やボランティアを障がいのある方がメインで行い、足りないところを私たちがお手伝いするような大会となれば、本当の意味でのパラリンピックになるのではないかと思っている。
- 自身が病気になってストレスを持つようになったが、障がいのある方々のストレスの発散はどのようにされているのかと思う。お会いしてきた障がいのある方々はポジティブで明るい方ばかりだったが、心のケアはどのようにされているのか。
- 私たちの想像を超えるようなストレスを常に持ち続けている方々の心のよりどころや発散する場所について何かお手伝いできないかと思った。

村井委員

- バリアフリーの取組みについて、先進地やベンチマークするようなどころについて、西山委員長から様々なご提案をいただき、どう取り入れていくかなどを議論していくと良いと思った。

議長（西山会長）

- 社会の動きが速い中、導入や変更するタイミングは難しいところもあるが、様々な情報を提供したいと思っている。

長野委員

- 市内を走行するバスについては、ノーステップのバスに9割変更している。ただし観光路線のバスについては、スーツケースなど大きな荷物を積み込むためのトランクを設置する必要があり、トランクを設置するバスについては階段が必要となる。路線の用途によってバスを使い分けている。
- 電動バスを導入されている地域があるが、今のところ外国製の車両のみであるため、日本製の車両が販売されるまでは様子を見なければならないと考えている。
- 高齢化が進んでおり、回覧を回すことも大変な状況となっている。電子回覧と

いったDXを導入し高齢の方に実施してもらうこともまた新しい問題やハードルが生じると思う。

- ・デジタル化は大事なことであると思うため、可能なところから進めていくなど融合させていくことを行政が旗振りをしてもらいたい。

長谷川委員

- ・町内会や職場など様々な場所において人材不足が大きな課題であると思っている。行政と一緒に人材不足に対して対応していくべきと考えている。

(2)について了承

5. その他

意見なし

6. 閉会

高山市誰にもやさしいまちづくり推進会議委員名簿

(敬称略)

任期 令和5年3月1日～令和7年2月28日

区分		分野	団体名(推薦依頼先)	役職	委員氏名	備考
有識者等	1	有識者 (大学)	東京都市大学	准教授	西山 敏樹	
	2	有識者 (多文化共生)	岐阜県多文化共生推進員		糸田 恵子	
	3	教育	高山市教育委員会	教育委員	野崎 加世子	欠席
市民代表	4	地域福祉	(福)高山市社会福祉協議会	会長	窪田 哲	
	5	身体障がい	高山身体障害者福祉協会 高山支部	副支部長	高堂 久子	
	6	高齢	高山地域介護保険事業者連絡協議会	副会長	野中 康代	
	7	発達障がい	飛騨圏域発達障がい支援センター	支援員	松浦 有喜子	
	8	環境	(一社)ふるさと体験飛騨高山	理事	渡辺 豊秋	
	9	伝建・町並	景観町並保存連合会	副会長	日下部 勝	オンライン
事業者	10	医療	高山市医師会	副会長	周 信夫	欠席
	11	観光	(一社)飛騨・高山観光コンベンション協会	副会長	村井 繁喜	
	12	建築	(公社)岐阜県建築士会飛騨支部	副支部長	林 芳忠	
	13	交通	濃飛乗合自動車(株)	管理部長	長野 猛	
関係行政機関	14	技術開発	岐阜県生活技術研究所	所長	長谷川 良一	